

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：14602

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K14065

研究課題名（和文）自閉症スペクトラム障害児の「こだわり」を用いた支援方法に関する研究

研究課題名（英文）Using restricted and repetitive behaviors to interact with children with autism spectrum disorders

研究代表者

狗巻 修司 (INUMAKI, Shuji)

奈良女子大学・人文科学系・准教授

研究者番号：30708540

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000 円

研究成果の概要（和文）：自閉症スペクトラム障害をもつ幼児期から学童期前半の子どもを対象とし、他者とのやりとりの発達的变化に伴って、障害特性の1つである反復的行動の変容プロセスについて縦断的な観察を実施した。本研究の結果、他者とのやりとり場面での行動変容に伴って、反復的行動の出現頻度や行動の継続時間に変化がみられること、および、反復的行動のなかでも常同行動や限局行動を他者がやりとりの中でうまく「活かす」ことで遊びを展開していくことが明らかとなった。本研究を通じて、自閉症スペクトラム障害児の反復的行動を相互交渉の中で「活かす」という視点の重要性を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自閉症スペクトラム障害児者への支援では「こだわり」（反復的行動）が問題となることも多い一方で、学術研究として反復的行動を対象とし対人相互交渉の障害特性と関連させた検討は不十分である。本研究では幼児期から学童期にかけての自閉症スペクトラム障害児を対象とし反復的行動の変容過程について分析することで、この行動が有する適応的側面、すなわち、反復的行動を対人相互交渉場面で「活かす」支援方法を検討するうえでの基礎的資料を提供することができたといえる。

研究成果の概要（英文）：This study examined the relationships between the developments of joint engagement and qualities of restricted and repetitive behaviors in children with autism spectrum disorders. The main results were as follow. First, along with the developmental changes in joint engagement, qualities of restricted and repetitive behaviors have changed. Second, the emergence of symbol-infused joint engagement and changes in qualities of restricted and repetitive behaviors were related.

研究分野：臨床発達心理学

キーワード：自閉症スペクトラム障害 反復的行動 相互交渉

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

自閉症スペクトラム障害児の障害特性の一つとして指摘される反復的行動には、保育・教育実践においては「こだわり」と表現される行動の多くが含まれている。反復的行動は、対人相互反応の障害に比べ、その発達の変容プロセスについての検討が不十分であると指摘されている。

2. 研究の目的

本研究では以下の2点について検討し、反復的行動を「活かす」という視点からの実践を展開するための基礎的資料を提供することを目的とした。

(1) 対人相互反応の発達の変化と反復的行動の変容プロセスの関連についての検討

自閉症スペクトラム障害児にみられる対人相互反応の障害は発達とともに変容することが指摘されている。対人相互反応の発達の変化とともに、反復的行動も関連して変容がみられるのかについて検討する。

(2) 相互交渉場面で反復的行動(こだわり)を「活かす」はたらきかけ方の検討

実践の中では、反復的行動を「減らす・無くす」という視点から支援が行われることも多い。しかしながら、反復的行動のなかには対象児の強い興味関心から生じているものもあることから、他者との相互交渉を成立・維持させる機能を持つ可能性について検討する。

3. 研究の方法

本研究では、観察法を用いることにより、以下の2つの場面での自閉症スペクトラム障害児と関与者との相互交渉場面の観察を実施した。

(1) 児童発達支援センターにおける療育場面

(2) 奈良女子大学大学院附属心理・教育相談室における心理セラピー場面

上記場面の観察により得られたビデオデータから、自閉症スペクトラム障害児の反復的行動の特徴と発達の変容プロセスの分析、および、自閉症スペクトラム障害児と関与者の相互交渉場面における行動特徴の分析を実施した。

4. 研究成果

対人相互反応の発達と反復的行動との関連について

自閉症スペクトラム障害児にみられる反復的行動のなかでも「常同行動」と「限局行動」に着目し、対人相互反応の障害と反復的行動の発達の関連について分析を行った。対人相互反応の指標としては共同的関与(Joint Engagement)の成立・変容プロセスに着目した。1名の自閉症スペクトラム障害児(観察期間4歳6か月～6歳5か月)を対象として、支援者との共同的関与の形態を分析したところ、異なる3つの時期が抽出された(期:二項的やりとり中心期/期:応答的共同注意萌芽期/期:応答的共同注意安定期・自発的共同注意萌芽期)。これらの時期ごとに、相互交渉の中でみられた反復的行動の質的変容について分析を行ったところ、以下のような特徴がみられた。

表1 反復的行動と支援者との相互交渉場面での行動特徴との関連

時期区分	反復的行動・支援者のはたらきかけ方の特徴
期	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚運動的な活動時に生じやすく、一度反復的行動を開始し始めると、支援者からの声かけへの反応や、道具操作への介入に反応しにくい ・観察対象児自らが活動を切り替えるタイミングを待ってはたらきかけることが多い ・支援者が積極的にはたらきかけるものの観察対象児から応答がみられにくい特徴は、常同行動や限局行動を示す場面により強くみられる
期	<ul style="list-style-type: none"> ・期と同様に道具の感覚運動的操作を伴う活動時に反復的行動が生じやすい ・関与者との相互交渉で快の情動を生起させた後に「手をひらひらさせながら飛び跳ねる」といった常同行動が生じやすい ・支援者とのパターン化したやりとりを好み、そのやりとりを繰り返すことが増加
期	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚運動的な活動時に生じやすいものの、行動中でも支援者の声かけに応答して自ら関与者に視線を向けるようになる ・指さしを用いて欲しい遊び道具を要求し、その遊び道具を用いた反復的行動を行うようになる ・期において遊びの中で表象スキルを用いたやりとり(例:食べるマネ、寝るマネなど)が生じるようになり、遊びスキルの向上と反復的行動の質に関連がみられる

反復的行動の変容過程と支援者のはたらきかけ方との関連

水や水遊びへの強いこだわりを示した1名の自閉症スペクトラム障害児を対象として、大学プレイルームでの介入による行動の短期間の変容過程と、その変容過程における支援者のはたらきかけ方について分析を行った。その結果、水や水遊びへのこだわりの変容過程に3つの質的に異なる時期が見出された（期：水の感覚に没頭する時期 / 期：水遊びに他の遊び道具を取り入れ始める時期 / 期：水遊びが減少・消滅し、新たな興味が芽生え始める時期）。セッションごとの遊びに占める水遊びの割合と、各時期の支援者のはたらきかけ方の特徴は以下の通りであった。

表2 反復的行動の変容過程と支援者のはたらきかけ方の関連

時期区分	支援者のはたらきかけ方の特徴
期 (1~4回目)	・ラポールの形成を目的としてはたらきかけが拒否された場合繰り返さない ・水へ没頭すると応答が少なくなるため、場所や状況を変化させるはたらきかけ
期 (5~7回目)	・水以外の感触遊びへの誘いかけ ・自らの道具操作への注意転換を目的としたはたらきかけ
期 (8~9回目)	・対象児が新たに関心を示した遊び(紙飛行機飛ばし)に共同実施者として介入するはたらきかけ

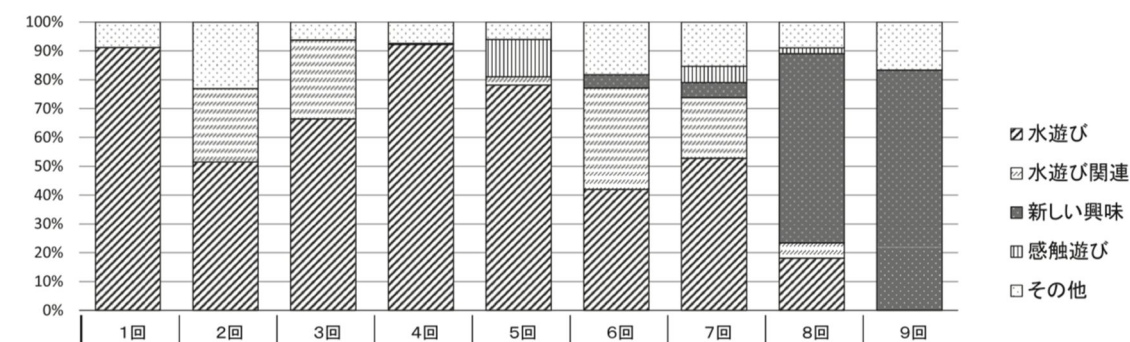


図1 心理教育相談室でみられた遊びの産出割合

相互交渉場面で反復的行動(こだわり)を「活かす」はたらきかけ方について

療育施設での観察や大学プレイルームでの支援の中で、反復的行動を「活かす」はたらきかけが複数観察された。これらの事例から、自閉症スペクトラム障害児との相互交渉の成立や維持において、反復的行動が機能的な側面を有することが伺えた。

表3 こだわりを「活かす」はたらきかけ方の観察事例の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・同一性保持行動が強い自閉症スペクトラム児へのはたらきかけ方(例:ものの配置を変化させると戻そうとする児に対して、わざとものを隠して、「宝探しゲーム」として探索活動を引き出す / いつも同じ座席位置に座りたがる児に対してわざと支援者がその位置に座り「どいて」という言語的要求を引き出す) ・常同行動を行う自閉症スペクトラム障害児へのはたらきかけ方(例:「まねっこ遊び」に取り入れる(クラス全体でのまねっこ遊び時に、児がたまたま行った「飛び跳ねて手をひらひらさせる動作」を取り入れる) / 「ものの匂いを嗅ぐ」動作を行った直後に支援者も逆模倣的に同じものを嗅いで「くさっ!」ということで、順番交代を含む「くさいくさい遊び」が成立する) ・儀式的行動が強い自閉症スペクトラム障害児へのはたらきかけ方(例:ドアの鍵が気になり何度も確認する児に「鍵がかかっているか見てきて」と役割を与える)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 狗巻修司	4. 巻 35
2. 論文標題 自閉症スペクトラム障害児の反復的行動の変容プロセスの検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化研究科年報	6. 最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 狗巻修司・谷口あや	4. 巻 13
2. 論文標題 中学校教員は発達障害を持つ生徒をどのように捉えているのか：想起理由と支援の分析から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育システム研究	6. 最初と最後の頁 351-361
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 狗巻修司	4. 巻 37
2. 論文標題 相互交渉場面における自閉症スペクトラム障害児の反復的行動の質的変容に関する分析：常同行動と限局行動に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人間文化総合科学研究科年報	6. 最初と最後の頁 13-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------